白馬岳山火事被害跡地調査について

平成２１年５月１９日、日本百名山で「花の名山」として名高い白馬岳の山頂からほど近い場所で、山火事が発生しました。

この山火事は、高山帯での発生という極めて希なケースであり、また、ライチョウの生息地や、高山植物が咲き乱れ高山蝶も多く見られるお花畑に近接し、多数の登山者が訪れる登山道の脇で発生したことから、貴重な自然の喪失と登山道の安全確保が懸念される状況にありました。
このため、中信森林管理署が信州大学山岳科学総合研究所に委託して調査を行いました。

なお、山火事の発生原因は、警察署等の調査により、スキーヤー又はスノーボーダー等のガスバーナー使用による火の不始末と推定されています。入山される方は、火気の使用に十分注意し（風の強い日は付近の草が燃えていてもよくわからない場合があります。付近に燃える可能性のあるものがあるところでは火気を使用しないようにお願いします。）、絶対に山火事を発生させないよう、よろしくお願い申し上げます。

１　山火事の概要

(1) 発生場所：白馬岳小雪渓上部、登山道脇斜面
(2) 出火推定時刻：平成21年5月9日（土）13時10分（大町警察署調べ）
(3) 鎮火時刻：同日15時30分（大町警察署調べ）
(4) 焼失面積：草本類、ハイマツ等0.59ha

山火事発生箇所（写真：大町警察署提供）

２　現地合同調査

現地合同調査

この山火事は、高山植物やハイマツを焼失させるという極めて希な事例であり、その影響が多方面に及ぶことが懸念されました。このため、6月1,2日に現地合同調査を実施し、今後の調査の方向性を検討しました。

現地調査の結果、植物の焼失により、そこをすみかや糧としている高山蝶やライチョウに対する直接的な影響や、植物の根茎によって安定化している表層土壌が不安定化し、近くを通る登山道へ影響が及ぶことが懸念される状況にありました。
このため、中信森林管理署が、信州大学山岳科学

総合研究所に委託して、それぞれの専門家による調査を行いました。（白馬高山植物等保護管理調査事業）

3　調査結果

本調査の結果、草本類については順調に回復しているとの結果を得ました。しかしながら、焼失したハイマツについては回復しておらず、高山帯では山火事後20年を経過しても植生が安定状態にならないという報告もあり、寿命の長いハイマツ群落の回復にはさらに長期間を要すると考えられます。

平成２１年度の調査では、高山蝶については、幼虫や卵は焼失したと考えられますが、食草は生育し成虫も延焼区域外から移入してきていますので、個体数は回復するとみられます。また、ライチョウについても、抱卵期の時期でなかったことが幸いしてほとんど影響がなかったとの結果を得ています。

山火事跡地で観察されたベニヒカゲ

焼失箇所の植生回復状況

地形については、山火事後の降雨による顕著な土壌浸食は観察されませんでした。

平成２２年度の調査では、草本類の焼失箇所は高山植物が回復していましたが、ハイマツの焼失箇所は草本類も含めた植生は回復していませんでした。

地温変化は、ハイマツの枯死により季節的な地温低下を招いているが土砂の移動等の変化は見られませんでした。

また、山火事による露出した岩石については熱的作用による影響は、見られませんでした。

4　今後の方向

ハイマツ等の枯死後に積雪が斜面下方にずり落ちる力で根茎の抜け上がりが心配され、土壌浸食による裸地が拡大したり、小規模な土砂移動が起こったりすることが考えられることから、ハイマツ等の植生の回復状況や、山火事の地形に対する影響について、積雪期前後での土壌の凍結融解過程とともに、継続して調査観測する必要があります。

このため、本年度においても継続した調査・観察を行う予定です。

焼失したハイマツは回復していない

（中信森林管理署ＨＰ掲載）